

図書館かがわ

香川県立図書館報 第132号

Library Kagawa



発行日 2021.7.1

ISSN 1344-5464

「集まれ高校生！読み聞かせボランティアにチャレンジ！！」
&「夏休み親子環境学習講座」を開催します！

集まれ高校生！読み聞かせボランティアにチャレンジ！！

県内の高校生を対象に開催します。

受講者は8月4日に「読み聞かせ講座」で絵本の選び方や読み聞かせのコツを学んだ後、5日の「高校生によるおはなし会」で、実際に読み聞かせの実践をします。

受講生の募集は、県内の高校を通じて行います（7月9日締切）。

高校生による読み聞かせは、聞いている子どもたちにもとても新鮮な感じがするようです。

ぜひ、ご参加ください。



夏休み親子環境学習講座

8月12日、13日に県環境森林部環境政策課と共同で開催します。

対象は小学生親子で、楽しみながら環境について学ぶことができ、自由研究にもぴったりの内容です。

海のプラスチックごみについて学ぶコースと、緑を取り入れた地球にやさしい暮らし方を学ぶコースがあります。

くわしくは館内で配布しているチラシをご覧ください。

*写真は昨年の行事のものです。

*事業開催に当たっては、新型コロナウイルス感染予防対策を実施して開催します。
感染症の状況によっては、中止する場合もありますので、ご了承ください。

レファレンス日誌から 第11回

～「鬼無町の怪獣キナッシー？！」の巻～



「高松市鬼無町の池にキナッシーという怪獣がいるという情報をネットで見た。このことについて書いてある資料はないか？」という問い合わせが県外から寄せられました。

鬼無町の池に出現する怪獣だから「キナッシー」…。船橋市のゆるキャラ「ふなっしー」を彷彿とさせるネーミングですが、この名前は未確認動物の代表例として世界的に有名なイギリスのネス湖の怪獣ネッシーに因るものと思われます。釧路湖のクッキーをはじめ、1970年代頃には全国の湖で、ネッシーのような生物を目撃したという話をよく耳にしたものです。しかし、香川県では聞いた記憶がありません。県内にため池はたくさんありますが、スケール感やロマンといった観点から、ため池にネッシーは似合わないと思いながら調査開始です。

ネット上のキナッシー情報は8月26日の四国新聞の記事にリンクされていましたが、リンク切れになっていました。掲載年が見当たらなかったので、数年分の8月26日の記事を探し、2008年8月26日1面のコラム「一日一言」に該当の記事を見つけました。記事には「十数年前のタウン誌には、まるでネッシーのような“証拠写真”が掲載された。もちろん同誌のジョークだった」とありました。タウン誌に載ったジョークであれば、有名じゃなくても不思議ではありません。

次にその新聞記事を手掛かりに90年代のタウン情報誌を探しました。ようやく、1994年2月号の『T j かがわ』の「月刊せとうちスポーツ」というスポーツ新聞に似せた連載の中に「鬼無町神高池にキナッシー現れる？！」という記事を発見し、質問者に回答しました。

ネット上の未確認動物情報を図書館の資料で確認することができた、とても興味深いレファレンスでした。

●図書館行事報告●

◆こども読書まつりを開催しました！◆

県立図書館では毎年「子どもの読書週間」（4月23日～5月12日）に合わせて、「こども読書まつり」を開催しています。昨年は新型コロナウイルスのため中止しましたが、今年は通常のおはなし会以外の行事を事前募集とし、感染対策を講じた上で開催しました。

4月17日（土）には「としょかんバッグをつくろう！」、「おはなし紡ぎの会」によるおはなし会、24日（土）には「英語のおはなし会」、「子どものためのクラリネット・コンサート」、5月8日（土）には「おおばこおはなし会」を行いました。

「英語のおはなし会」では、香川県国際交流員秋月シンシアさんが、『Dear z o o』など、やさしい英語絵本を読んでくれました。

「子どものためのクラリネット・コンサート」では、童謡や手遊び歌など、子ども向けの音楽をクラリネットの豊かな音色で楽しみました。



5月8日（土）に予定していた「夏にむけて『みどりのカーテン』をつくろう！」については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりましたが、参加予定者には、準備していた資料とゴーヤの苗を配付しました。

これからも、子どもたちが図書館に親しむきっかけとなるような行事を開催しますので、どうぞご参加ください。

～「うなぎの本」～

この本オススメです！

今年（令和3年）の土用の丑の日は7月28日。土用の丑の日にうなぎを食べるという習慣は、江戸時代に平賀源内が考案したとの説があります。

焼きたてのうなぎの香りは食欲をそそり、暑い夏を乗り切る力になるような気がしますね。

そこで今回は、「うなぎの本」をご紹介します。

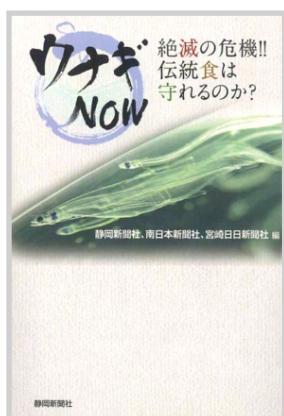


『結局、ウナギは食べいいのか問題』

海部 健三／著

岩波書店 2019.7（請求記号:4080/I4/1-286）

ニホンウナギは、2013年に環境省が、2014年に国際自然保護連合(IUCN)が、絶滅危惧種に指定しています。そんなに数が減っているのに、食べていいの？と疑問に思ったら、この本を手にしてください。うなぎの研究をしている著者が、うなぎをめぐる現状と課題についてわかりやすく解説しています。

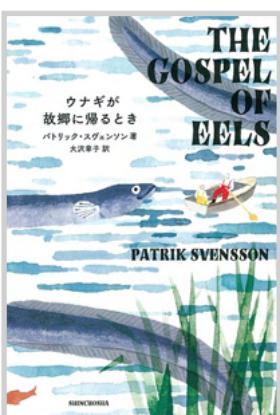


『ウナギNOW 絶滅の危機！！伝統食は守れるのか？』

静岡新聞社, 南日本新聞社, 宮崎日日新聞社／編

静岡新聞社 2016.6（請求記号:6646/S12）

うなぎ関連産業が盛んな3県の地方紙が、「うなぎをめぐる諸問題の“今”を報道しようと、大学における研究やシンポジウム、全国の小中高校への出前授業に密着取材。産地の歴史から、個体数の減少による危機、養殖の現場や資源保護に向けての動きなどが詳細に語られています。



『ウナギが故郷に帰るとき』

パトリック・スヴェンソン／著, 大沢章子／訳

新潮社 2021.1（請求記号:4876/S5）

うなぎの故郷はどこなのか。長い間謎とされてきたこの問い合わせをテーマにしたノンフィクションです。スウェーデンの田舎町に生まれ、新聞記者になつた著者は、父親の病をきっかけに帰郷します。うなぎとそれを取り巻く人々についての章と、父親とうなぎ釣りをした思い出の章が交互に語られることで、うなぎの長い旅に著者の人生が重なる、味わい深い作品です。

●図書館コーナー紹介～なつかしのバックナンバー～●

閲覧室雑誌コーナーでは、国内外の雑誌、約800タイトルを開架しています。雑誌は定期的に新しいものが刊行されるので、棚に入りきらなくなつたバックナンバーは、順次書庫へ移して、永年保存しています。

平成29(2017)年6月から、普段は書庫にあり、目に触れることのないバックナンバーを、利用者の方が自由に閲覧・貸出できるよう、雑誌コーナーの一隅に「なつかしのバックナンバー」コーナーを開設しました。このコーナーで紹介している雑誌は、話題になったものや、歴史の古いものなど、当館で長年、収集・保存してきたものです。

これまでに、「暮らしの手帖」、「別冊太陽」、「キネマ旬報」、「美術手帖」、「将棋世界」、「囲碁クラブ」、「音楽の友」、「ミステリマガジン」など、幅広いジャンルの雑誌を18回に渡って紹介してきました。

展示している雑誌は、約3カ月で定期的に入れ替わりますので、時間のあるときに、是非ぞいでみてはいかがでしょう。雑誌はその時々の時代を映し出す鏡です。懐かしのあの人、忘れていた出来事など、嬉しい再発見があるかもしれません。

